

みなとオアシスあきたにぎわいプラン



平成20年3月
秋田市

みなとオアシスあきたにぎわいプラン 目次

序 章	みなとオアシスあきたにぎわいプランとは	
1.	策定目的	1
2.	策定手法	1
3.	対象地域	2
4.	取り組み時期	2
第1章	秋田市ポートタワー周辺地域の現状と上位関連計画	
1.	秋田市ポートタワー及び周辺地域の施設概要	3
2.	みなとオアシスあきたの概要	12
3.	秋田市ポートタワー周辺地域の土地利用	14
4.	秋田市ポートタワー周辺地域の道路網	15
5.	土崎地域の現状と地域資源	17
6.	秋田港の利用状況	22
7.	上位計画及び関連事業	24
第2章	にぎわい創出に向けた利用実態とニーズ	
1.	利用実態	30
2.	来訪者の特性	31
3.	施設の現状評価	34
4.	秋田市ポートタワー及び周辺地域において強化すべき機能	36
5.	秋田市ポートタワー及びその周辺の整備に対する市民ニーズ	37
6.	みなとオアシスあきたにぎわいに向けたニーズの整理	38
第3章	みなとオアシスあきたにぎわい基本構想	
1.	目指すべき将来像	40
2.	基本方針	41
3.	にぎわい創出に向けた施策テーマ	42
第4章	にぎわい創出のための取り組み施策	
1.	強化すべき機能	44
2.	にぎわい創出のための施策	46
第5章	秋田市ポートタワーの機能強化に向けた改修計画	
1.	秋田市ポートタワーの機能強化に向けた改修計画の流れ	58
2.	機能別施設規模	59
3.	秋田市ポートタワー周辺の配置方針	64
4.	秋田市ポートタワー内配置方針	67
第6章	実施計画	
1.	目標年次設定の考え方	73
2.	実施主体別年次計画	74
第7章	今後の課題	75

序 章

みなとオアシスあきたにぎわいプランとは

序 章 みなとオアシスあきたにぎわいプランとは

1. 策定目的

秋田港ポータルネッサンス 21 事業の先導的施設として、平成 6 年 4 月に建設された秋田ポートタワー（愛称：セリオン）は、秋田港のシンボルとしてのみならず、秋田市のランドマークとして市民に定着し、秋田港周辺のにぎわい創出に大きな役割を果たしてきました。

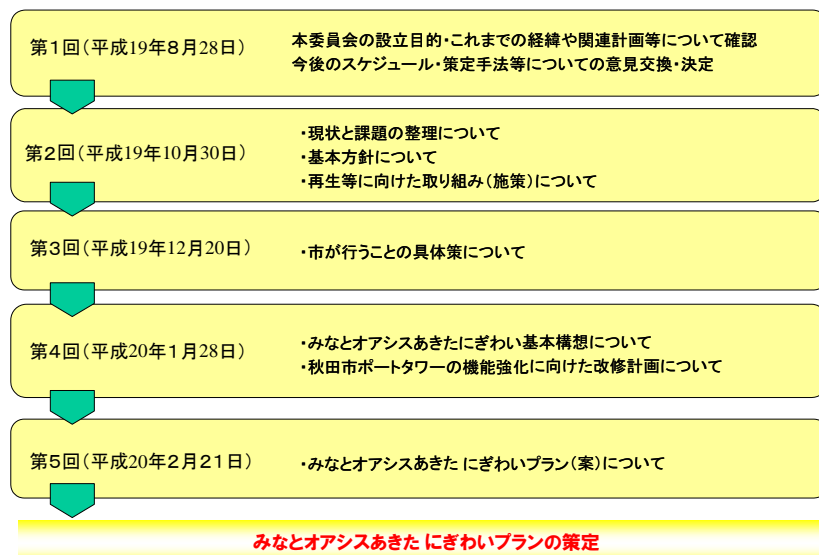
しかし、2 年目以降、落ち込んだ展望者数を回復するには至らなかったことから、施設の整備目的である港のシンボルとしてにぎわいを安定的かつ継続的に創出するため、市が平成 18 年度に施設を公設化し、平成 19 年 4 月に秋田市ポートタワー（セリオン）としてオープンしました。

市では、公設化を契機として、秋田港を中心とする周辺地域の更なるにぎわいを創出するため、秋田市ポートタワー（セリオン）およびその周辺施設の利活用方策や整備計画、地域連携等の取り組みについて具体化する「みなとオアシスあきたにぎわいプラン」を策定します。

2. 策定手法

秋田市ポートタワー（セリオン）公設化にあたり、市では、学識者、商工団体、専門家、関係行政機関等で構成する「秋田市ポートタワー利活用検討会」を平成 19 年 1 月に設置し、同年 5 月までに合計 5 回の検討会を開催し、秋田市ポートタワー（セリオン）とその周辺施設の利活用方針をまとめました。

本プランは、その方針を踏まえ、上記検討会メンバーに地元団体、秋田市ポートタワー（セリオン）周辺の民間事業者、観光事業者等を加えた「みなとオアシスあきたにぎわいプラン策定委員会」を平成 19 年 8 月に設置し、平成 20 年 2 月までに合計 5 回の委員会を開催し、策定されたものです。



3. 対象地域

本プランにおいて対象地域となる秋田市ポートタワー（セリオン）の周辺地域とは、秋田臨海鉄道南線より海側で、秋田フェリーターミナルから秋田県漁業協同組合活魚鮮魚直売センターまでの範囲とします。また、秋田港周辺地域とは、秋田港港湾区域に隣接した土崎地域及び、飯島地区を含む地域としました。

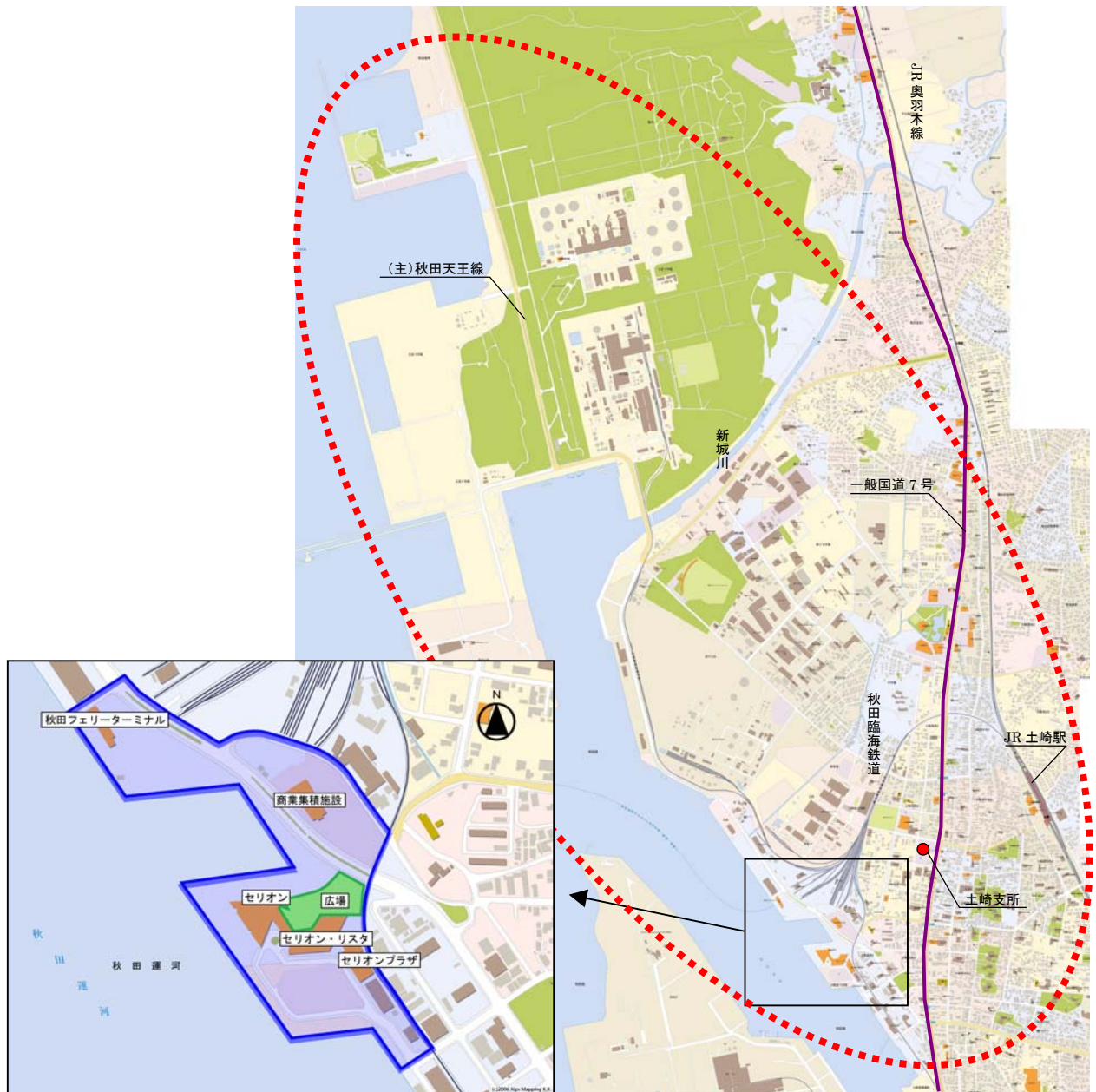


図-1 セリオン周辺地域（青線枠内）

図-2 秋田港周辺地域（赤枠内）

4. 取り組み時期

本プランでは、概ね10年後の将来像の実現を描きながら、すぐに取り組むべき短期的施策、概ね8年後までに実現する中期的施策、継続的に検討を進めて取り組むべき長期的施策を対象に計画するものです。